

# 創薬研究活動のご紹介

 ASKA Pharmaceutical Co., Ltd.



# 湘南研究所

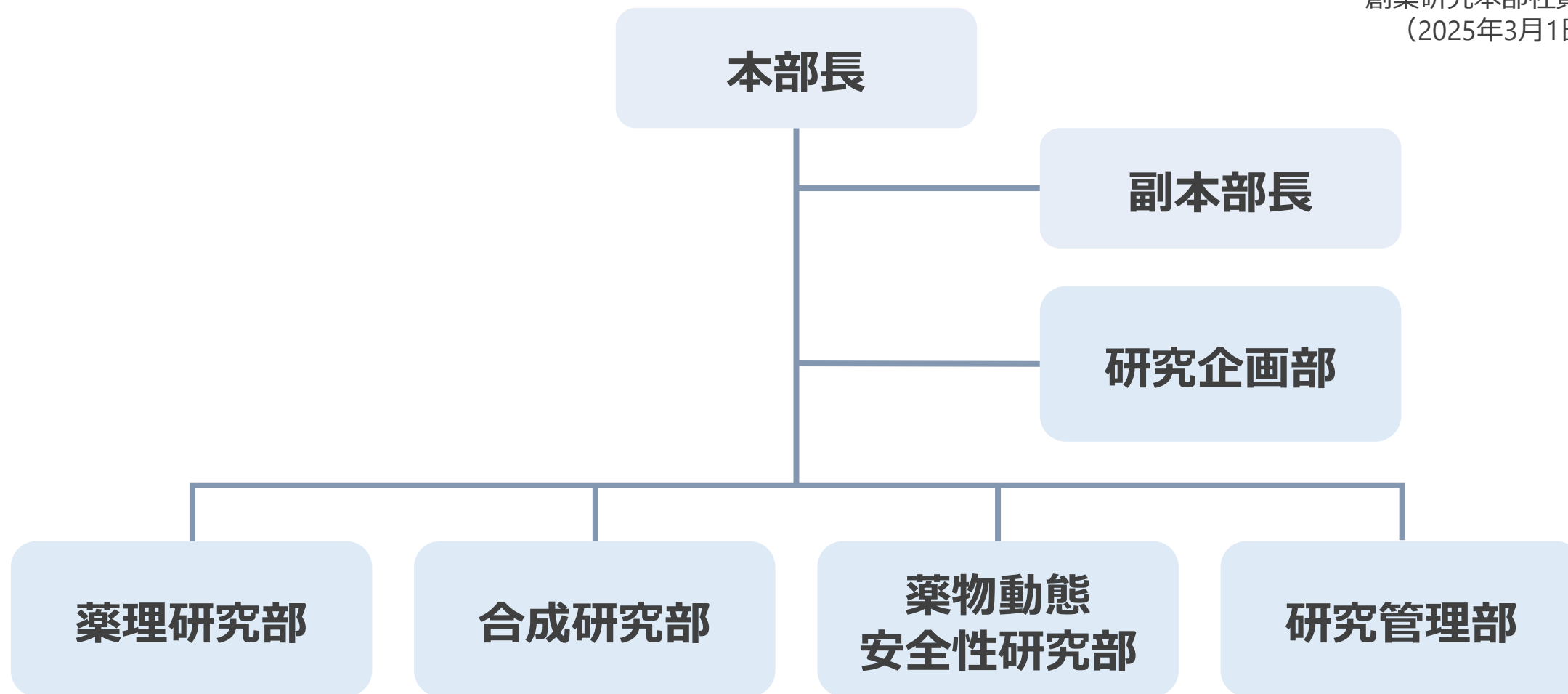
## ◆ 創薬研究強化に向けて、2020年4月に、川崎研究所を閉鎖して 湘南ヘルスイノベーションパーク（湘南アイパーク）※へ移転

※製薬企業のみならず、次世代医療、細胞農業、AI、行政など約190社（メンバーシップ企業64社含む）、  
2500人以上（2025年2月現在）の企業・団体が集積し、エコシステムを形成している日本初の製薬企  
業発サイエンスパーク



# 創薬研究体制

創薬研究本部社員数：89名  
(2025年3月1日現在)



# 従来の創薬研究活動と成果

重点領域として、産婦人科領域、内科（消化器、甲状腺）領域、泌尿器科領域に注力し、主に国内での開発品の創出を目指した創薬研究を実施

## AKP-009（新規アンドロゲン受容体モジュレーター）

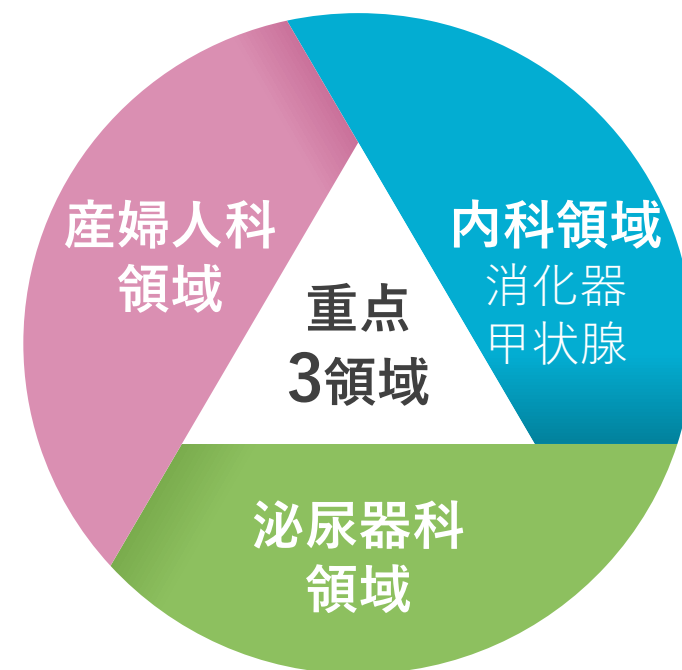
自社の強みである内分泌ホルモン研究より見出した自社創製化合物であり、前立腺肥大症治療薬として、杏林製薬と共同開発中（P2a）

## AKP-021（mPGES-1阻害剤）

自社創製化合物で、現在、P1実施中

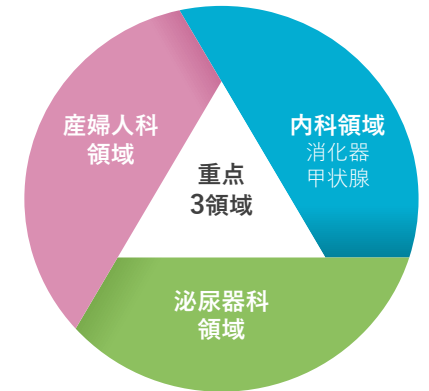
## AKP-017（テストステロン経鼻剤）

投与経路の課題（経口投与不可）をクリアするため、粒子径ならびに水溶性高分子に関する製剤特許を自社で取得し、現在、開発準備中

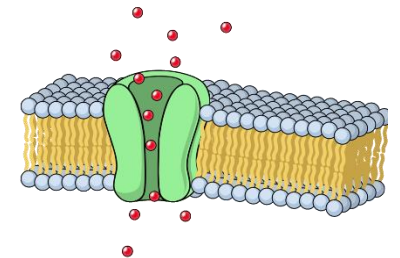


# 新たな創薬研究活動について

- 従来の重点領域は継続し、その中でも産婦人科領域はさらに創薬基盤技術を強化
- 重点領域外でも、オープンイノベーションの積極的な活用を通じて新領域のアンメット・メディカル・ニーズ（UMNs）にも挑戦
- 新たな創薬プラットフォームとして、イオンチャネルに対する創薬基盤技術を導入



+  
**UMNs**



# 主な創薬対象疾患（産婦人科領域）

## ● 重点注力（戦略的重点）疾患

- ・ 子宮内膜症/子宮腺筋症
  - ・ 子宮筋腫
  - ・ 女性不妊
  - ・ 多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）
  - ・ 更年期障害
  - ・ 変形性関節症
- 

## ● 注視疾患 *Monitored Areas*

- ・ 月経困難症
  - ・ 月経異常
  - ・ 女性性機能障害
  - ・ 閉経関連泌尿性器症候群（GSM）
  - ・ 甲状腺眼症
- 

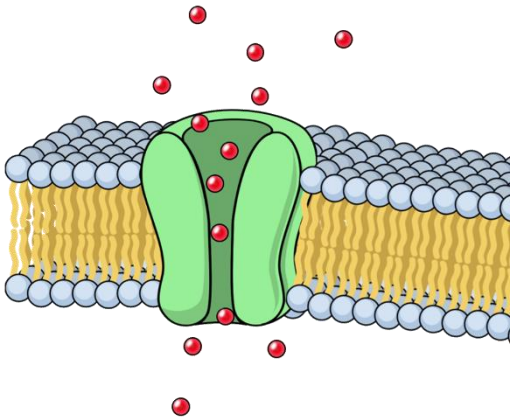
## ● 機会探索疾患

- ・ 過多月経
  - ・ 不育症
  - ・ 避妊
-

# イオンチャネルとは

## ◆ イオンチャネルとは

- イオンチャネルは細胞の内外へイオンを透過させる膜タンパク質で、化学伝達物質の放出やホルモン分泌制御などに関与しており、様々な疾患の標的分子として魅力的なターゲット分子です



種類	疾患
Ca <sup>2+</sup> チャネル	不整脈、糖尿病、筋ジストロフィー、てんかん、高血圧、片頭痛、筋発育不全、脳梗塞、疼痛
Cl <sup>-</sup> チャネル	嚢胞性線維症、腎結石症、ミオトニア
K <sup>+</sup> チャネル	不整脈、気管支喘息、運動失調、高血圧、心筋梗塞、難聴、糖尿病、てんかん、癌、緑内障、免疫抑制
Na <sup>+</sup> チャネル	不整脈、てんかん、片頭痛、ミオトニア、疼痛、麻痺、脳梗塞
リガンド依存性イオンチャネル	アレルギー疾患、気管支喘息、てんかん、逆流性食道炎、片頭痛、パーキンソン病、ハンチントン病、痛み、脳梗塞、胃潰瘍、便秘

Ion Channels as Therapeutic Targets for Multiple Diseases (2002)より改変



# 今後の方針

- オープンイノベーションを推進し、外部から必要な技術や創薬シーズを導入することで創薬研究を加速するとともに、創薬パイプラインの充実を図る
- 創薬基盤技術を強化し、国内外の製薬企業との協業を促進
  - 産婦人科領域において独自の創薬基盤技術を確立
  - イオンチャネルに対する創薬プラットフォームを構築
- 継続的にグローバル開発品を創出し、大手製薬企業への導出を目指す





# Life with ASKA

先端の創薬を通じて  
人々の健康と  
明日の医療に貢献する

